

大悲山の石仏

—国指定史跡「薬師堂石仏」「阿弥陀堂石仏」「観音堂石仏」—



所在地：福島県南相馬市小高区泉沢薬師前ほか
※JR小高駅より車で10分。JR桃内駅より徒歩20分。
※見学（年中無休・無料・駐車場有）
※薬師堂石仏は堂内に入ると、自動で照明がつきます。

発行：福島県南相馬市教育委員会文化財課
〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前1-70
TEL 0244-24-5284 FAX 0244-24-1288
メールアドレス bunkazai@city.minamisoma.lg.jp



大悲山の石仏

南相馬市小高区泉沢にある「薬師堂石仏」「観音堂石仏」「阿弥陀堂石仏」は「大悲山の石仏」として親しまれています。この石仏群は東北地方で最大、最古の石仏であり、昭和5年に国指定史跡に指定されました。福島県南相馬市小高大悲山磨崖仏、栃木県宇都宮大谷磨崖仏、大分県臼杵磨崖仏を日本三大磨崖仏と称しています。

大悲山の石仏の中で最も保存状態の良い薬師堂石仏は、凝灰質砂岩を削り抜き、間口15m、高さ5.5mの空間を作りだした上で、浮彫で表現された4体の如来像と2体の菩薩像、線で表現された2体の菩薩像と飛天が彫られています。高さ2m~3mを測り、朱色などの彩色が光背の一部に残っていることから、本来は色鮮やかな石仏であったと考えられます。

観音堂石仏はこの石仏群の本尊であったとされる千手觀音坐像であり、保存は良くないものの、高さ約9mを測る日本最大級の石仏です。化仏と言われる小さい仏が壁面に多数刻まれています。この磨崖仏（千手觀音）は、元禄期に奥州中村城主相馬昌胤によって奥相三拾三所觀音が定められ、その中の第二十七番礼所にもなっています。

阿弥陀堂石仏は形もあきらかでないほどに剥落が激しく、現在は仏像と思われる芯の部分を残すのみで、阿弥陀仏が刻まれていたと伝えられています。

これらの石仏群の特徴は首の太さ、胸の張り出しなどのどっしりした姿、光背や胸の飾り出しなどから、平安時代に造立された石仏と推定されています。

この石仏を作った人たちや歴史的背景も良く分かっておらず、未だ謎の多い石仏群です。しかし、この石仏群は一千年以上も前にこの地で比類なき仏教文化が花開いたことを示す貴重な歴史遺産であり、その大きさやスケールが群を抜く日本有数の古い石窟寺院と評価されています。



薬師堂石仏復元図



薬師堂石仏



観音堂石仏復元図



觀音堂石仏



県指定天然記念物。薬師堂石仏がある樹齢一千年といわれ、薬師堂石仏が作られた頃から育ちつけたスギである。

大悲山の大スギ